

2024年2月16～18日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で噴火湾環境調査を実施しました。道南太平洋および噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。
 (函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

噴火湾内では大気からの冷却により鉛直混合が進み、水温は海面から海底までほぼ一様となっています。湾内は4℃台で平年より約1℃高い程度ですが、湾の外にかけて水温は高くなっており、湾外の水深100m以浅では6℃台と平年および前年と比較して3～4℃高くなっています (St.05, 08)。

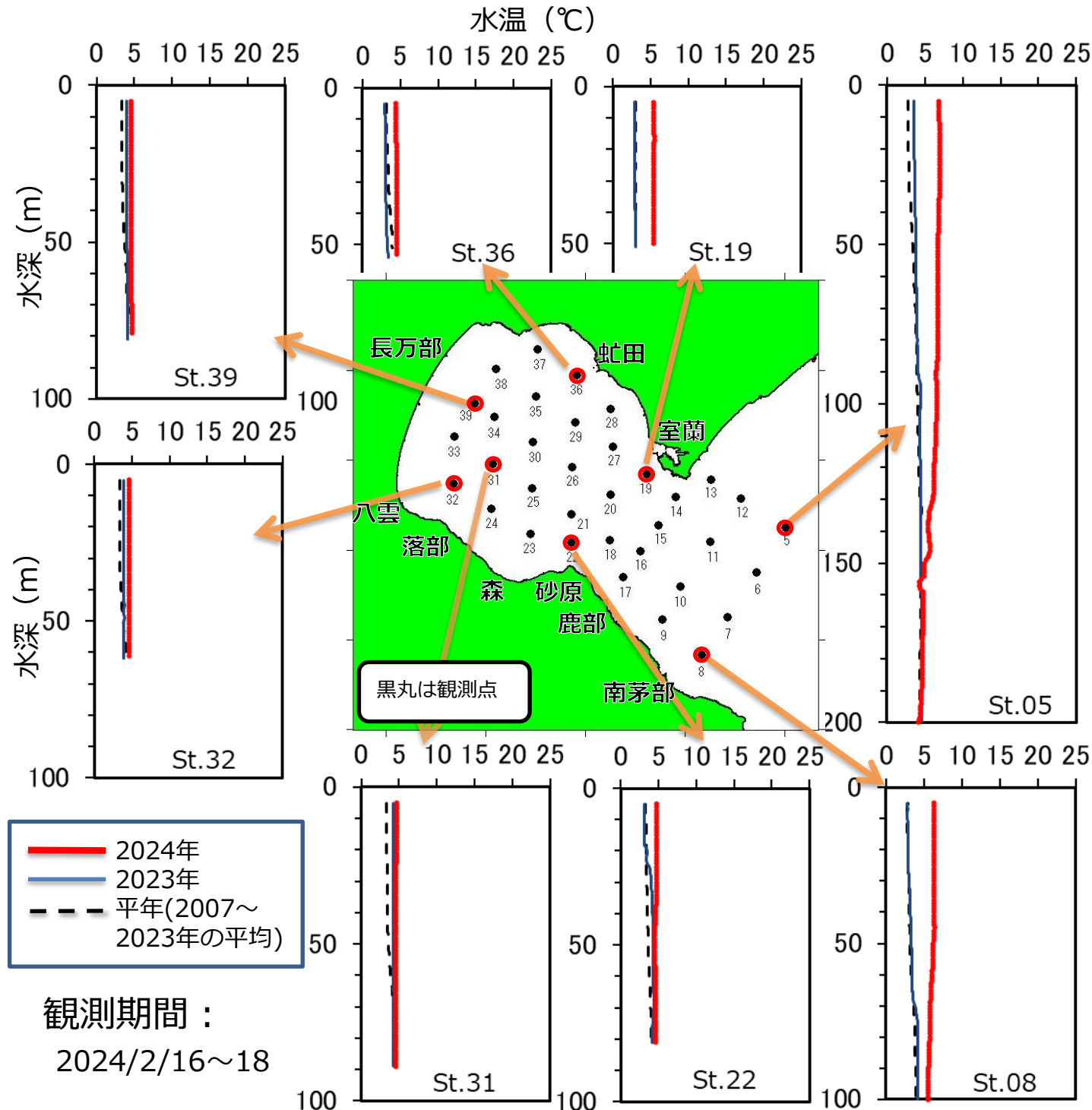


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分の水平分布】

調査海域の深度20mの水温は4~6℃台、塩分は33.4~33.6の範囲でした。例年噴火湾付近には低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下、塩分33.3以下）が分布していますが、今年の調査時点では湾内に流入していません。

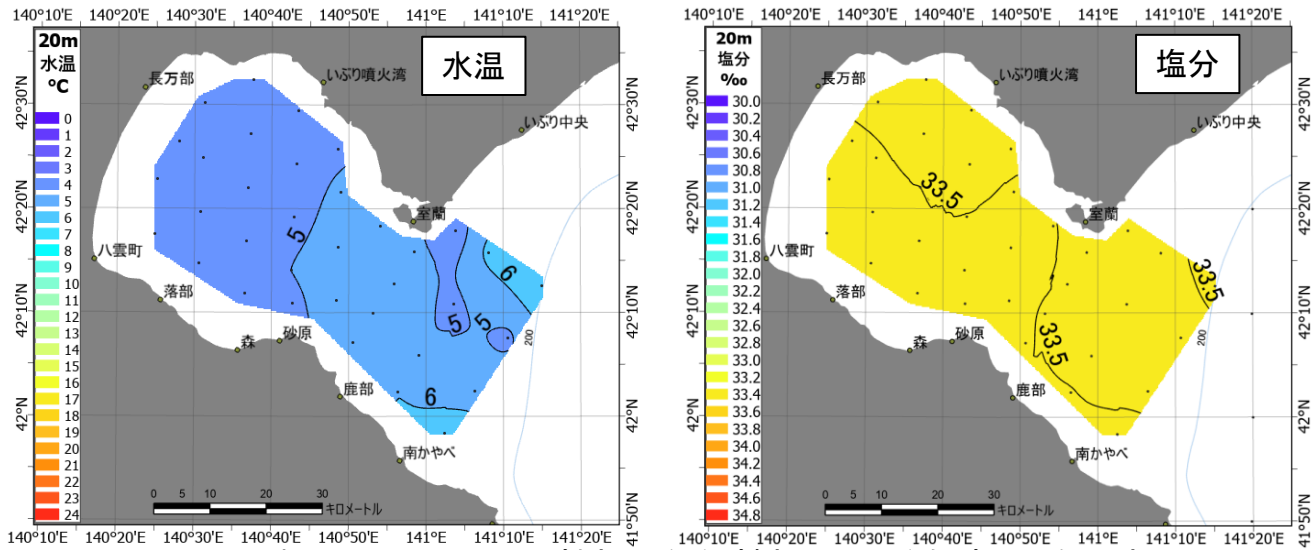


図2 深度20mにおける水温（左）と塩分（右）の水平分布（2024年2月）

【襟裳岬以西の親潮系水の分布状況】

上述した親潮系水は冬季に道東太平洋から噴火湾に流れてきます。襟裳岬以西の水温と塩分の水平分布を見ると、[前年同時期](#)（図3左）は親潮系水が沿岸寄りに分布し胆振側の一部に流入していましたが、今年（図3右）は胆振東部沖にとどまっており、噴火湾内への流入は認められません。

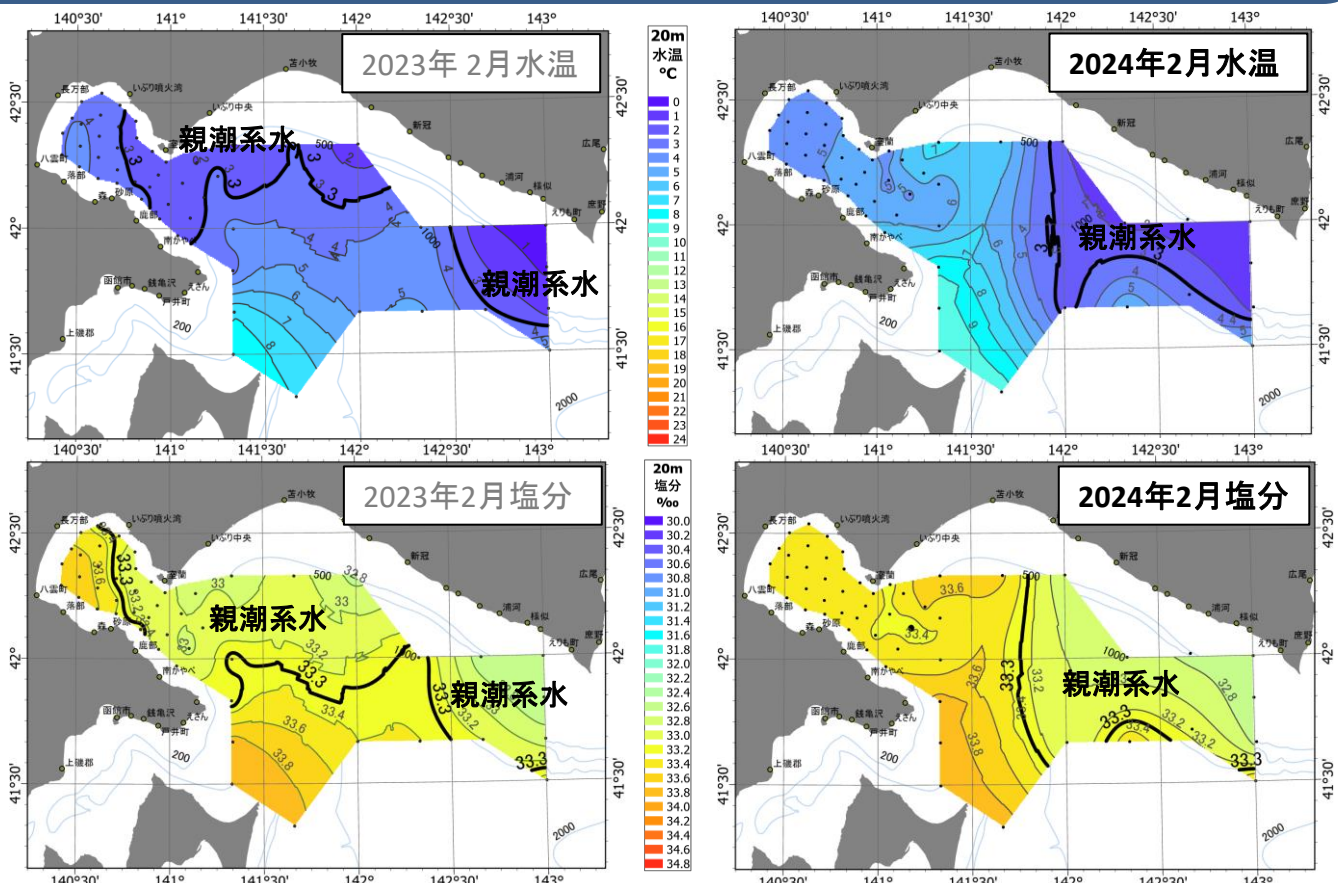


図3 襟裳岬以西における深度20mの水温と塩分の水平分布（左：2023年2月，右：2024年2月）
（資料：北辰丸による定期海洋観測結果）